

街路樹

教師力upの素の活用～国語～



教育支援室～SSWの活用～

平成30年度の全国学力・学習状況調査の結果が公表され、各学校でも分析や課題の洗い出しが行われている最中かと思われます。国語においては小中に共通して、「主語と述語のつながりを意識して読む・書く」「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書く」「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」などを苦手とする傾向が見られました。新学習指導要領においても、情報の扱い方に関する指導の改善・充実が求められており、知識及び技能の一つとして明示されました。

このような課題に対し、授業改善のヒントとして、当センターの調査研究委員会がまとめ、ホームページ上で公開している「教師力upの素」を是非ご活用ください。

例えば、中2の「根拠を明確にして意見文を書こう」の授業では、書いた文章をグループで読み合う際、

- ①何のために読み合うかの目的を明示する
- ②分かりやすい文章構成を例示する
- ③生徒たちがそれぞれの文章を①②の観点に沿って書いているかを読み合い、適切な助言をし合う様子が、紹介されています。

ほんのひとりでうまみが加わる「○の素」は、世界中の台所で重宝されています。毎日の授業をよりよくしたいと考えている先生方にとって、「教師力upの素」が授業にうまみを加え、子どもたちの目がさらに輝ききっかけになることを願っています。



いわき市のSSW(スクールソーシャルワーカー)は、市配置のワーカーが4名、県配置のワーカーが4名おります。計8名のワーカーで、担当地区を分けて活動しています。

市配置のSSW(平・小名浜地区)の平成29年度の活用状況を相談が多かった順に見てみると次のとおりです。

- ①家庭環境の問題
- ②心身の健康問題
- ③不登校の問題



その他、虐待や貧困の問題にも対応しました。

SSWは、社会福祉制度の知識をもち、家庭の問題などの解決に向けて、関係機関と連携して支援します。支援を要する児童生徒の背景から情報提供や支援方法を探り、対応していきます。

学校だけで解決することの難しい家庭の問題(貧困・虐待・面前DV※)やいじめ、不登校、暴力行為などの生徒指導上の問題など、心配なことがありましたら、教育支援室へご連絡ください。

SSWが積極的に学校訪問をして、何でも相談できる関係作りに力を入れていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくをお願いします。

※ 面前DVとは、「児童が同居する家庭における配偶者に対する暴力」で、児童虐待防止法に定められた心理的虐待とされている。家庭内のDVによって、家庭は安心できなくなるうえ、子どもの適切な養育が家族の重要事項でなくなり、子どもに関心が向かない、かまってもらえないという状況が生まれる。

学級づくり ②

2学期がスタートして1ヶ月余り過ぎましたが、先生方の学級は「理想の学級」に近づいていますか。夏休みが明けて体も心も一回り成長した子どもたちへの指導に、難しさを感じている先生はいらっしゃらないでしょうか。今回は「思春期の指導」をテーマに書かれた図書を紹介します。ぜひご自身の学級づくりを振り返ってみてください。

- 1 性差を意識した指導の心がけ(思春期の子どもは、低学年に比べて男女差が大きいことをまず押さえます。)
- 2 子どもとの良好な関係を築くために「信・敬・慕」を意識(信頼・尊敬・思慕)

「友達先生」でなく、「この人の言うことなら聞こう」と一目置かれるような望ましい関係づくりに努めます。

- (1) 信・・・言っていることとその人自身が一致している状態、言行一致で信頼が得られます。
- (2) 敬・・・「すごい」と思われることで得られます。「よく分かる授業」「楽しい授業」で子どもの能力を伸ばせる先生です。
- (3) 慕・・・親しみをもたれることで得られます。休み時間には、存分に遊んだりおしゃべりを楽しんだりして、関係性を築いていくことです。

このように子どもと教師の関係を築いていくことは、思春期に限らず、どの学年の学級づくりにも基本となるのではないのでしょうか。

著者はこの後「何より困ったことがあった時に、本人に打ち明けてもらえるようにしたいです。『信・敬・慕』すべてがバランスよく揃った教師には未だ届かない境地ですが、いつまでも追い求めたいと願いながら、今日も私は教室で、子ども達の前に立っています」と続けています。(思春期の子どもとつながる学級集団づくり・赤坂真二編著・明治図書)

赤坂先生の著書は「思春期の具体的指導」「思春期指導の極意」と続きます。総合教育センター図書資料室に蔵書がありますので、ぜひ読んでみてはいかがでしょうか。

